

## 大学内の一部を特別に見せてもらいました！

### 講義室



ほとんどの講義で教室/オンライン参加を選択可能。カメラで室内の様子を映し、オンラインでも一緒に受講している一体感が得られるように。

### 図書館



書籍の蔵書はエッセンシャルなものを中心。そのほかは、大学院で契約する「電子ジャーナル」で、国内外の論文を自由に閲覧可能。最先端の情報にも常にふれることができます。学生、教員一人ずつに支給されるIDカードで貸し出し手続き、出入りも24時間可能。

### 教授の研究室



教授ごとに研究室があります。少人数でのゼミ、ディスカッションなども行なわれます。

### ラウンジ



休憩できるラウンジが大学院内のあちこちに。静岡市街地の景色を眺めながらリフレッシュできる場所やちょっとラグジュアリーな場所もあり、授業や演習の合間に思い思いの時間が過ごせます。気分転換して、ますます研究に精が出そうですね。

### デジタルサイネージ



一般の方も入場可能なスペースには、デジタルサイネージで大学紹介を掲出しています。



## 静岡県、日本、そして世界を支える。 健康寿命の延伸を図るための、社会健康医学研究機関。

昨年4月、北安東に静岡社会健康医学大学院大学が開学。  
病気の予防につながる研究とそこに携わる人材を育成する重要な機関です。  
具体的にどんなことを学べるどんな施設なのか、  
研究科長である田原教授に詳しく紹介してもらいました。

### たばらやすはる 研究科長 田原康玄 教授

医療の進歩などにより、日本では半世紀で20年も平均寿命が延びました。しかし健康寿命と10年以上のギャップがあることが課題。解決のためには、一人ひとりの患者を対象に病気を治すことを目指す「治療医学」と共に、集団を対象にデータを集めて様々な角度から分析し発症や重症化を予防するための研究を行なう「社会健康医学」が重要な役割を担います。静岡県が設立した当大学では、県内の全市町から集積した医療ビッグデータの活用、健康増進施策・疾病予防対策のための疫学研究、ゲノムコホート研

究の3つが柱。このうちビッグデータの研究では220万人もの膨大な治療や薬の処方に関する情報を細かく分析することで疾病の傾向などを掴み、病気の予防、そして健康寿命を延ばすことにつなげていきます。全国から集まった、現役のドクターなど医療関連分野で実務経験を持つ19名の一期生とスタートを切りました。いずれも研究の成果を社会に還元したいと意欲的です。日本、さらには世界の健康を支える存在になってもらいたいですし、静岡県に根付く医療者が増えることにもなれば良いですね。



伊豆半島南部の賀茂地域で行っているゲノムコホート研究「かも研」のように、県内外の他大学や企業、行政とも協力して研究に力を入れています。

